

一般財団法人 南西地域産業活性化センター

令和8年度 自主研究レポート（プレスリリース）

< 沖縄県の物価と食料支出の関係（エンゲル係数上昇の要因分解） >

当財団は2026年度自主研究の一環として、表記の調査を実施した。その概要は次の通りである。

1. 物価上昇と共に食料支出が増加しており、エンゲル係数（総消費に占める食料支出の割合）も上昇していることから、2020年以降にみられるエンゲル係数の上昇要因について分析を行った。
2. 分析にあたっては、エンゲル係数の変化（増減）に対して①食料価格要因、②食料数量要因、③消費者物価要因、④消費数量要因の4つに分け、各要因がどの程度寄与しているかを把握する「4要因法」を用いて実施した。
3. 分析の結果、2022年以降に消費者物価の上昇が消費を抑制しエンゲル係数を引き下げているものの、それ以上に食料価格高騰および全体の消費数量減少の影響が強く、エンゲル係数の上昇に寄与していることが明らかとなった。
4. 政府の検討している食料関連の消費税ゼロ税率は、沖縄県ではエンゲル係数を引き下げる一定の効果があると考えられるが、2年間の時限的な措置であるため、中長期的には物価上昇に連動した所得の上昇や地産地消を促進する取組が必要となる。
5. 更に所得階層別の要因分析も必要と考えるが、統計資料上の制約のため、今後の課題とする。

■本件に関するお問い合わせ

（一財）南西地域産業活性化センター 調査第2部 上江洲

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-15-9 アルテビルディング那覇 2階

Tel : 098-861-2180 Email : uezu-t【at】niac.or.jp

※Emailのアドレス中の【at】は、@に置き換えてください。

報道各社

一般財団法人 南西地域産業活性化センター（NIAC、ニアック）は、“南西地域のシンクタンク”として、同地域における産業の活性化と持続的な発展に寄与し、皆さまのご期待にお応えできるよう役職員が一丸となって尽力しているところです。

その活動の一環として、この度自主研究レポート「沖縄県の物価と食料支出の関係（エンゲル係数上昇の要因分解）」をとりまとめました。その結果についての概要を皆さまに報告いたします。

一般財団法人 南西地域産業活性化センター
会長 本永 浩之

“南西地域のシンクタンク”



NANSEI SHOTO INDUSTRIAL ADVANCEMENT CENTER

～本レポートのご利用に際して～

- 本報告は執筆担当者の見解に基づき作成されたものであり、当財団の統一的な見解を示すものではありません。
- 本報告は著作物であり、著作権法に基づいて保護されています。同法の定めに従い、引用の際には必ず出典を明記してください。
- その他、ご不明な点やお気付きの点などございましたら、お手数ですが、当財団までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

沖縄県の物価上昇の動向と食料支出の関係

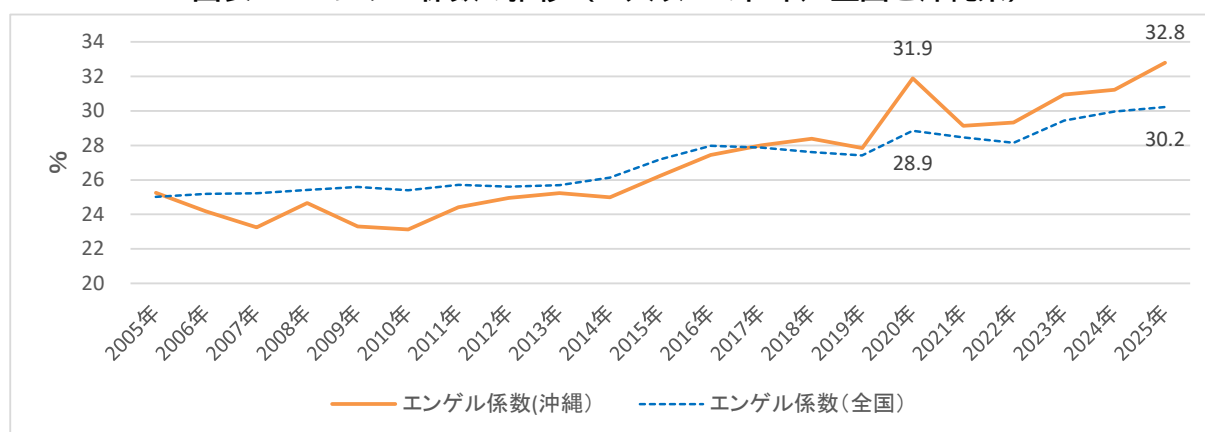
(エンゲル係数の要因分解)

はじめに

近年注目されている経済社会変動のひとつに、エンゲル係数の上昇が挙げられる。エンゲル係数とは消費支出全体に占める食料支出の割合で、一般にはエンゲル係数が高まるほど当該地域（または国）の生活に余裕がなく、低いほど生活水準が高いとされる。

沖縄県のエンゲル係数は、図表1より、2005～2015年にかけて22～26%の幅で推移してきたものの、その後は増加基調で推移している。2017年には全国を上回り、以降は全国よりも高い水準を維持している。2020年には30%台となり、翌2021年には反落したものの、再び増加基調で推移し、直近の2025年には32.8%まで高まっている。

図表1 エンゲル係数の推移（二人以上の世帯／全国と沖縄県）



※全国、沖縄県、いずれも二人以上世帯の数値。

出典：沖縄県「家計調査」、総務省「家計調査」より

全国的にも2014年頃からのエンゲル係数上昇を受けて、調査研究対象として注目を集めるようになった。先行研究として大島（2017）、樫（2017）、阿向（2018）、熊野（2022）、大石（2024）、長濱（2025）、新家（2026）などが挙げられる。

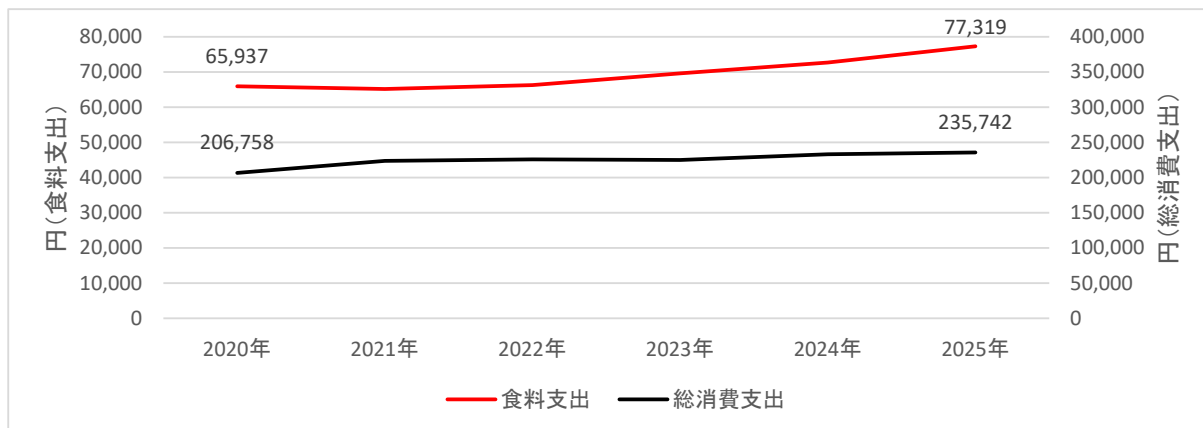
沖縄県では統計上の制約などもあり分析や検証が進んでいないのが現状ではあるが、基礎的な消費である食料費の動向は県経済にも少なからず影響を及ぼすことから、その動向や変化要因を把握することは重要である。

そこで本レポートは、エンゲル係数の変化、特に足元の2021年から上昇基調で推移している点に着目し、その変化要因を探り、必要な施策を示唆することを目的に実施した。

1. 食料支出の推移

食料支出と総消費支出の推移をみると、2020～2025年の5年間で、総消費支出が1.1倍増加したのに対して、食料支出は1.2倍増加している【図表2参照】。年率換算ではそれぞれ2.7%増、3.2%増となっており、食料支出の増加が強くみられる。

図表2 食料支出と総消費支出の推移（沖縄県）



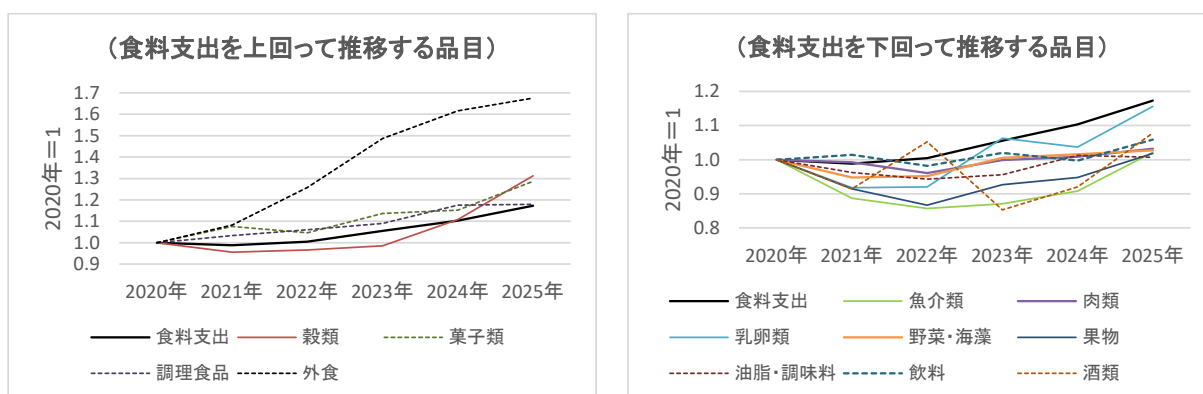
出典：沖縄県「家計調査」より

食料支出の増加のうち、費目ごとの寄与度をみているのが図表3である。2020年を基準として、食料支出各費目がどれだけ変化したのかを指数化している。食料支出（全体）が2020年から2025年にかけて1.17倍に上昇しており、各費目も2020年比で総じて上昇している。

このうち「外食（1.68倍）」、「穀類（1.31倍）」、「菓子類（1.29倍）」および「調理食品（1.18倍）」など、主に加工食料が食料支出の上昇に影響している。「穀類」は2023年まで食料支出の伸びを下回って推移していたが、2024年からの米価高騰により上昇している。

逆に「油脂・調味料（1.01倍）」、「魚介類（1.02倍）」および「肉類（1.03倍）」など、肉食（自炊）に関連する素材食料は食料支出全体の伸びよりも下回って推移している。

図表3 食料支出と各費目の推移（沖縄県）



出典：沖縄県「家計調査」より作成

2. エンゲル係数の要因分析

エンゲル係数の要因分析は、大石（2024）、大島（2017）に倣っている。

前述の通り、エンゲル係数は総消費支出に占める食料支出の割合であり、支出は次の式の通り数量と価格に分けることができる。

$$E = \frac{C_f}{C} = \frac{Q_f * P_f}{Q * P}$$

E ：エンゲル係数 C_f ：食料支出 C ：総消費支出

Q_f ：食料数量 P_f ：食料価格 Q ：総消費数量

P ：消費者物価

このとき、エンゲル係数前年差 (ΔE) を、①食料数量要因、②食料価格要因、③総消費数量要因、および④消費者物価要因に4分解すると、次式で表すことができる。

$$\begin{aligned} \Delta E &= \frac{C_{f_t}}{C_t} - \frac{C_{f_{t-1}}}{C_{t-1}} = \frac{Q_{f_t} * P_{f_t}}{Q_t * P_t} - \frac{Q_{f_{t-1}} * P_{f_{t-1}}}{Q_{t-1} * P_{t-1}} \\ &= \frac{C_{f_{t-1}}}{C_t} * \left(\frac{\Delta Q_{f_t}}{Q_{f_{t-1}}} * \frac{C_{f_t}}{C_{f_{t-1}}} + \frac{\Delta C_{f_t}}{C_{f_{t-1}}} \right) - \frac{C_{f_{t-1}}}{C_{t-1}} * \left(\frac{\Delta Q_t}{Q_{t-1}} * \frac{P_t}{P_{t-1}} + \frac{\Delta P_t}{P_{t-1}} \right) \\ &= \underbrace{\frac{C_{f_t} Q_{f_{t-1}}}{C_t} * \frac{\Delta Q_{f_t}}{Q_{f_{t-1}}}}_{\text{①食料数量要因}} + \underbrace{\frac{C_{f_{t-1}}}{C_t} * \frac{\Delta P_{f_t}}{P_{f_{t-1}}}}_{\text{②食料価格要因}} - \underbrace{\frac{C_{f_{t-1}}}{P_{t-1} Q_t} * \frac{\Delta Q_t}{Q_{t-1}}}_{\text{③消費数量要因}} - \underbrace{\frac{C_{f_{t-1}}}{C_t} * \frac{\Delta P_t}{P_{t-1}}}_{\text{④消費者物価要因}} \end{aligned}$$

これらの統計資料は、沖縄県「家計調査」および「消費者物価指数¹」から引用する。なお、数量に関しては公表されている統計資料から把握できないため、 $C_f = Q_f * P_f$ の定義式より、食料消費支出を食料消費者物価指数で除した値を数量として計算している。

また、それぞれの要因についての解説は、図表4の通りになる。

図表4 エンゲル係数と各要因の関係

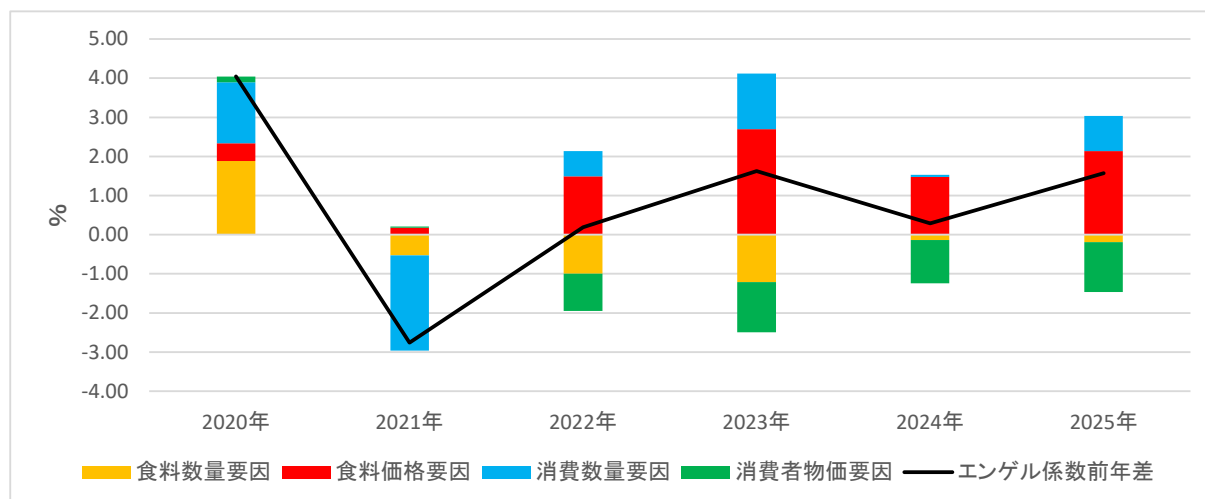
要因	結果の解説
①食料数量要因	食料品の購入数量の変化がエンゲル係数に及ぼす影響。 増加/減少すれば、エンゲル係数は上昇/下落する（正の関係）。
②食料価格要因	食料品価格の変化がエンゲル係数に及ぼす影響。 上昇/下落すればエンゲル係数は上昇/下落する（正の関係）。
③消費数量要因	支出全体の消費数量の変化がエンゲル係数に及ぼす影響。 増加/減少すればエンゲル係数は下落/上昇する（負の関係）。
④消費者物価要因	全体の消費者物価の変化がエンゲル係数に及ぼす影響。 上昇/下落すればエンゲル係数は下落/上昇する（負の関係）。

¹ 消費者物価指数は、持家の帰属家賃を除く総合を用いている。

3. 分析結果

2020～2025年までの、沖縄県におけるエンゲル係数の対前年差と各要因別の寄与度は図表5の通りである。

図表5 エンゲル係数の要因分解（沖縄県）



沖縄県のエンゲル係数は2020年に大きく上昇し、2021～2022年に反落した。その後は上昇基調で推移している。エンゲル係数上昇の主因は食料価格要因で、全体の消費数量が減少したことも影響している。逆に消費者物価要因や食料数量要因は、エンゲル係数上昇の抑制に寄与している。2022年移行、食料価格の高騰や消費全体の数量減少がエンゲル係数を押し上げ、消費者物価の上昇がエンゲル係数上昇を抑制しているといったパターンが固定化している。

時代背景を踏まえて考察すると、2020年はコロナ・パンデミックの始まった年で、「巣ごもり消費」による食料関連の消費（数量）が増えた反面、その他の消費が減少したことでエンゲル係数が上昇したとみられる。また、前年の消費税増税（※食料品等を除き税率が8→10%に引き上げ）の影響もあり、全体の消費数量が減少したこともエンゲル係数上昇に寄与している。この時期には食料価格要因の影響は小さい。

2021年はコロナ禍が続いたものの、食料以外の支出も増加したことを受けて、エンゲル係数は下落した。スーパーなどへの外出機会を減らすために食品以外の日用品のまとめ買いなどが影響したと考えられる。

2022年にはロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の上昇を受けて物価高騰が顕著になった。食料物価も前年比で5.2%ポイント上昇している。以降物価高による影響は消費（数量）抑制の効果が働き、エンゲル係数の引き下げに寄与している。

2023年に新型コロナが5類に移行して経済活動は活性化し、需要拡大によって物価高騰が続いた。また、同年にはパレスチナ・イスラエル戦争の勃発に起因するエネルギーの供給不安も物価高騰の持続に影響したと考えられる。この年には食料価格要因が最も強くみられる。

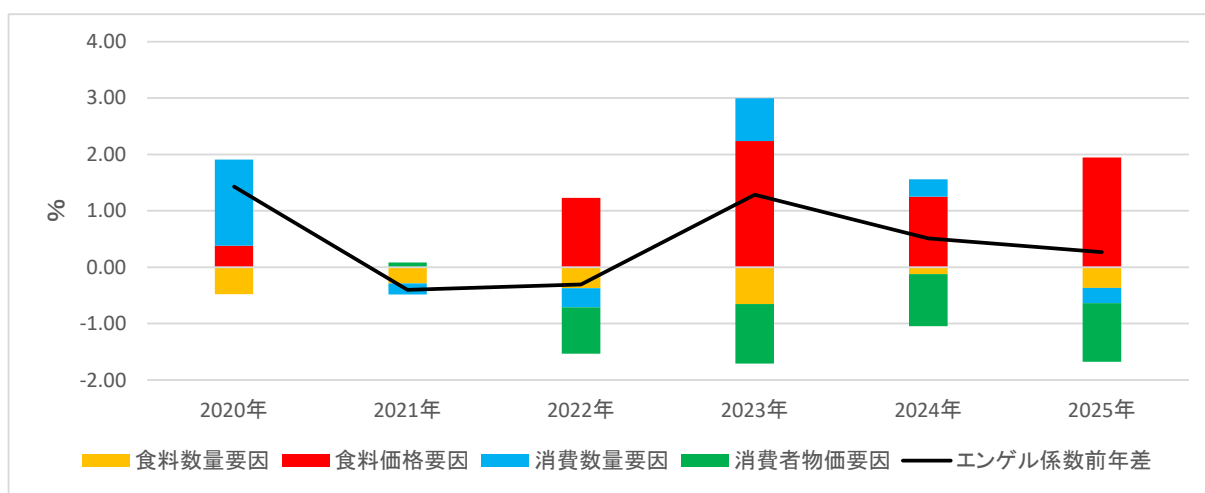
2024年は、前年の猛暑によって米が不作、米価が急騰した。2025年に政府は備蓄米を放出

したものの、価格は高止まりしている。その結果、食料価格要因はさらに上昇しエンゲル係数を押し上げている。

参考までに、同期間における全国のエンゲル係数の要因分解も行った【図表6参照】。

全国も沖縄県と同様の動きを示しているが、食料価格要因の影響は沖縄県が強くみられる。また、2025年に全国では全体の消費数量要因が増加しエンゲル係数下落に寄与しているが、沖縄県では逆に消費数量要因が減少し、エンゲル係数の上昇に寄与しているなどの相違がみられる。

図表6 <参考> エンゲル係数の要因分解（全国）



4. まとめと今後の課題

調査結果を改めて整理すると、直近 2022～2025 年におけるエンゲル係数上昇の主要因は食料価格の上昇によるものであることが確認された。物価高騰は他の消費価格を押し上げることで、一定規模エンゲル係数の低下に寄与しているものの、それ以上に食料価格上昇の影響が強くみられる。

現在、政府は食料品の消費税減免を検討しているが、施行されれば食料価格を引き下げ、エンゲル係数の低下に寄与するとみられる。消費減税の影響度合の測定については、今後の課題としたい。

なお、食料品の消費減税は 2 年間税率をゼロにするという時限的な施策であり、恒常的な解決にはならない。中長期的には食料価格上昇を抑制・吸収し県民の負担感を軽減に向けた取組を進める必要がある。例えば、物価上昇に連動（スライド）した所得の向上や、農業生産物に特化した輸送やエネルギー・コストの軽減に繋がる支援策、あるいは生産体制を強化するための地産地消の推進などが考えられる。

また、食料費の負担感は世帯収入の違いで異なると予想されることから、所得階層別での要因分析を行い、必要な施策を検討する必要があるものの、統計資料の制約のため本レポートでは断念した。この点についても今後の課題としたい。

(了)

【参考文献】

- 阿向泰二郎 (2018)「明治から続く統計指標：エンゲル係数」、総務省統計局研究所『統計リサーチノート』No. 5
- 大石邦弘 (2024)「エンゲル係数の上昇傾向を探る」、『名古屋学院大学論集 社会科学篇』第 60 巻第 4 号 p. 193-200
- 大島敬士 (2017)「家計調査結果からみた近年のエンゲル係数の上昇要因について」、『季刊家計経済研究』Spring No. 113, p. 84-93
- 熊野英生 (2022)「エンゲル係数上昇の内幕 ～物価以外にも増える要因はある～」、第一生命経済研究所『Economic Trends マクロ経済分析レポート』
- 新家義貴 (2026)「上昇が続くエンゲル係数～食料品価格の上昇が押上要因に～」第一ライフ資産運用経済研究所『Economic Trends マクロ経済分析レポート』
- 永濱利廣 (2025)「エンゲル係数上昇の主因は家計の節約」、第一生命経済研究所『Economic Trends マクロ経済分析レポート』
- 樋浩一 (2017)「エンゲル係数の上昇を考える」、ニッセイ基礎研究所『ニッセイ基礎研究所報』Vol. 61, p. 173-180